

図1 現在のパリの地下鉄路線図 ～ パリの市壁地図を眺める時の参考用として挿入する



注：メトロ2号線に Philippe Auguste 駅あり 駅名になった王はフィリップ・オーギュストのみ

1. フランク王国メロヴィング朝とクローヴィス死後の分割

① メロヴィング朝 クローヴィスの時代～511年

② クローヴィスの死後～領土は、四人の息子に分割相続し、ロワール川以南は分割せず四人が相続



図2

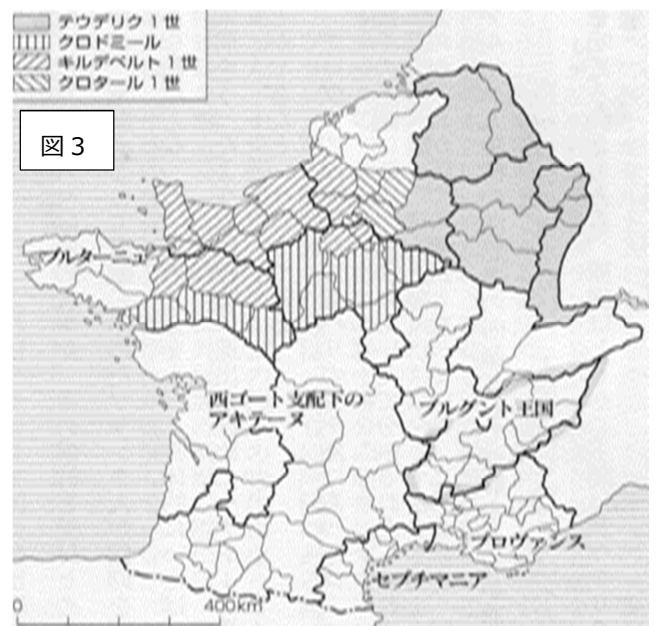


図3

- ③ 50 年ほど後には、第 2 世代、第 3 世代と分王国の継承が行われ、新しく征服したロアール川南のプロヴァンス、ブルグンド（別のゲルマン民族で現在のブルゴニユの語源になった）の併合も含めて、分王国の枠組みがアウストラシア（東分王国）、ネウストリア（西分王国）、ブルグントの三つに固定されるようになる。

7 世紀初めにアウストラシアの国内行政の最高職である宮宰であった大ピピンの血統から、後のカロリング王家が生まれた。カロリング朝のフランク王は大ピピン(b580-a628-d640)からルイ 5 世(b967-a986-d987)まで約 360 年続く。 注：（b-a-d）は、b=birth 誕生,a=ascend 即位,d=death 死亡を示す。以降も同じ

## 2. フランク王国カロリング朝

- ① フランク族のカロリング家は代々メロヴィング朝に仕え、宮宰を輩出してきた家系であった。はじめ大ピピンはフランク王国の分王国（アウストラシア）の宮宰であったが、中ピピンにおいてはフランク王国全体の宮宰を務め、小ピピンに至っては遂にメロヴィング朝を廃しカロリング朝を開いた。751 年から 987 年までフランク王国やそれが分裂した後の東フランク王国・西フランク王国・中フランク王国の王を輩出した。987 年、西フランク王国の王家断絶をもって消滅した。なお、「カロリング」は姓ではなく「カールの」という意味である。当時のフランク人には姓はなかった。

注：仏語 = シャルルマーニュ、独語 = カール大帝、王宮はドイツのアーヘン



- ② シャルルマーニュ（a768-d814）時代のヨーロッパ



- ③ ヴェルダン・メルセン両条約後の国境



- ③ 北方ヴァイキングの侵入とノルマンディー公国

800 シャルルマーニュ、教皇より皇帝の冠売りを戴く

807 アーヘンがシャルルマーニュの居城

（温泉が出るのが首都の決め手になった）

845 ヴァイキングがセーヌ川を上り、パリを襲撃破壊

（北から来たので、ノースマン/ノルマンと呼んだ）

900 頃ヴァイキングがセーヌ川、ロワール川下流に定住

911 仏王シャルル単純王ヴァイキングにノルマンディーを与えノルマンディー公国成立

987 カロリング朝断絶、ユーグ・カペー朝始まる

1066 ノルマンディー公ウイリアム、イングランド王即位

1154 フランス国土の半分以上をイングランドが領有

9~10 世紀のヨーロッパ 出典：詳説世界史研究山川出版



### 3. イギリス・プランタジネット朝

- ① 前2項③で述べたように、北方から侵入してきた海賊**ヴァイキング**の一部は911年にカロリング朝のシャルル三世単純王から大西洋岸のノルマンディーの土地を与えられ**ノルマンディー公国**が誕生した、今やフランス語を話すノルマン人の公国である。987年にはカペー朝が誕生するが、ノルマン人は1066年にイングランドを征服し、ノルマンディー公は初代のイギリス王としてノルマン朝を開いた。詳細は2020年5月に「最後のイギリス旅行 その4 ノルマン様式城郭のはじまり」を参照。ノルマン朝は大陸側のフランスの諸侯とフランス語で交流を進め、婚姻政策などで勢力を拡大しフランス本土の半分以上を領有するに至った。(図8参照)

(余談： 帝国ホテルが朝食にコンチネンタル方式の食べ放題を採用して**バイキング**と名付けて広がった)

- ② フランスの**アンジェ Angers** や**ル・マン Le Mans** 付近の**アンジュー伯家**の**アンリ Henri** (英語では Henry ヘンリー) は、既に1151年にカペー朝のルイ七世からノルマンディー公として認められていたが、翌年フランス王と離婚したばかりの**アキテーヌ公**の女相続人**アリエノール**と結婚し、フランス南西部の**ポルドー**を含む広大なアキテーヌ公領を獲得していた。
- ③ **1154年**にノルマン朝第4代の王の死亡が伝わると、**アンリ伯**はイングランドに渡り、イングランド王として戴冠し、5代王**ヘンリー二世**(a1154,d1189)となった。イギリス・**プランタジネット朝**の始まりである。
- ④ 図8はイングランドのプランタジネット朝の王ヘンリー二世領土で、イギリス全土からピレネーまで広がっている。フランス内部の領土を「**アンジュー帝国**」とも呼んでいる。
- ⑤ 広大な領土をヘンリーは家臣団を率いて頻りに巡回するために、イングランドの統治を合理化しなければならなかった。



図8 1200年頃のアンジュー家支配地

### 4. イギリス・プランタジネット朝のフランス側の城郭 (参考記載 英仏どちらの歴史にも詳しく記載がない)

- ① **アンジェ Angers** : ロワール川、サルトル川、マイエンヌ川そしてウードン川の4つの川が合流するメーヌ川沿いに開けた河港都市。ローマ時代以前にすでに都市が形成されており、メーヌ川を見下ろす岩山の上にあるアンジェ城は戦略的な要所でありローマ軍が駐留した。9世紀にはアンジェ伯の勢力下になり、11世紀に隣国の侵略を防ぐために建設、12世紀にはイギリスの**プランタジネット王朝**の一部になった。1204年には**仏王フィリップ2世オーギュスト**が征服し、**フランス王国に併合**、13世紀に孫の**聖王ルイ9世**によって巨大な城塞が建設された。

ロワール川沿いには百年戦争でジャンヌダルクが活躍したシノン城や城郭都市オルレアンもあるが、王家や貴族が過ごす宮殿と呼ぶのがふさわしい沢山のシャトー-Chateaux があり、フランスの中では美しいフランス語が話されている、と言われており、特にアンジェはフランス語を専攻する留学生に人気である。

図9 メーヌ川からアンジェ城を望む 08年



図10 2008年3月 アンジェ城訪問



図11 見学通路に展示された建設当初と思われる絵



- ② **ル・マン Le Mans** :約 4000 年前にガリア人の要塞都市 Oppidium ができていた。BC57 年にこの町にローマ軍が侵入し、紀元 1 世紀から丘の斜面に劇場、浴場、フォーラム等を備えたローマ軍の駐屯地を建設した。図 12 は、1~4 世紀のガロ・ローマ時代からの城壁が今に残っている。270 年頃のゲルマン人の侵入から、町の保護の為に市壁が建設され、フランスで最もよく保存されている代表例である。1128 年には、アンジュー家のフルク 5 世 (a1131-d51) の息子でメーヌ伯領の後継者の**アンジュー公ジョフロワ 5 世美男王**がイングランド王ヘンリー 1 世の娘のマティルダと**ル・マン**で結婚し、**プランタジネット朝**を興した。この新しい公爵家から**アンリ Henri** (英語では Henry ヘンリー) は生まれ、アキテーヌのエレノアと結婚し、イングランド王ヘンリー 2 世になると、スコットランドからピレネーまでの強力な王になった。

図 12



図 13 城郭上段 観光パンフレットより



図 13 城郭下段



余談：ル・マンの新市街のダウントウンには、**24 時間自動車レース**に関する飾りがあふれている。

## 5. フランス王権の回復

- ① 第 3 項のイングランド王国プラタジネット朝のフランス支配地図（図 8）を見ると、イングランドがフランスを支配したかに見える。フランス王の権威が地に落ちているのも事実だった。しかし、フランス王の封臣のノルマンディー公爵がイングランド王の座を奪いイギリスを支配したとも言える。→ フランスの一部には現在でも、「**イギリスはフランスの一部だ**」という人たちがいる
- ② 当時のイギリスはローマ軍が撤退し、ゲルマン人のアングル人、サクソン人、デーン人が移住してきて、現代では使われなくなった**古英語**を話していた。そこにフランス語を話すノルマン人が王と地方貴族の要職を占めており、彼らはフランス側に住むアンジュー家など親戚・身内とフランス語で交流していたのである。
- ③ フランス王ルイ 6 世(a1108-d1137)は顧問であった**サン・ドニ**修道院長の助言を基に、封建的主従関係を政治的序列付の原理として活用し、フランス王がイングランド王より序列が上である事を確認した。

④ その子の**ルイ 7 世**(a1137-d1180)は、1151 年にサン・ドニ修道院長の導きでヘンリー 2 世をパリに呼び寄せ、フランス王の下臣として忠誠を誓わせるのに成功した。こうして、**フィリップ 2 世尊厳王**(a1180-d1223)は、王権の威光は揺るぎない権力として回復した。**ルイ 7 世までがフランク王国の王で、フィリップ 2 世からフランス王国の王となる。**

## 6. フィリップ II 世オーギュスト（尊厳王）

- ① 1188 年、フィリップ・オーギュストは、英王ヘンリー 2 世に抗して英王太子リチャード獅子心と同盟、ヘンリー 2 世と戦いアンジェなど失っていたフランス西部の領地を回復し、ヘンリー 2 世は死亡、リチャード獅子心は、ノルマンディー公及びイングランド王を継承しリチャード 1 世として即位した。（右図は百年戦争当時の**シテ島の王宮**）
- ② 1190 年第 3 回十字軍に参加するために、ルーブル宮殿建設、市壁建設、シテ島内のすべての街路を舗石で覆うように命令、フィリップ・オーギュストの市壁はパリの周囲を城壁で囲うように指示した。その範囲は当時までの数世紀に広がっていた居住地域をほとんど含み、周囲 6 km、壁の高さ 10m、横幅 2.5m の丸い塔 67 本であった。フランス王国が誕生して初めての城郭都市パリの**市壁**である。
- ③ 初期カペーの王たちは好んでオルレアン地方に滞在したが、フィリップはパリのシテ島にある**王宮**に住まうことが多くなった。フランス王国の首都として初めての**城郭都市パリ**の始まりである。

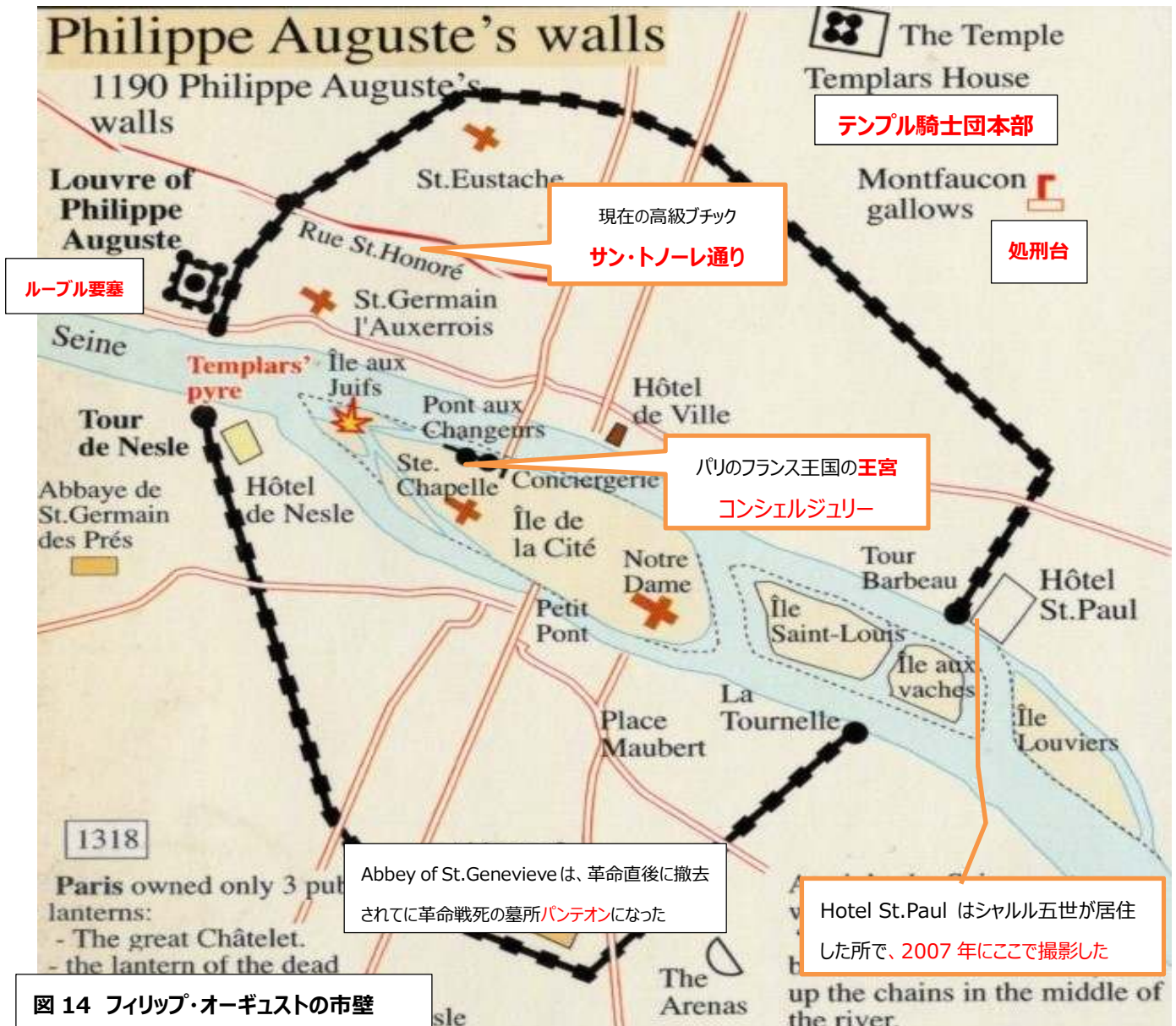
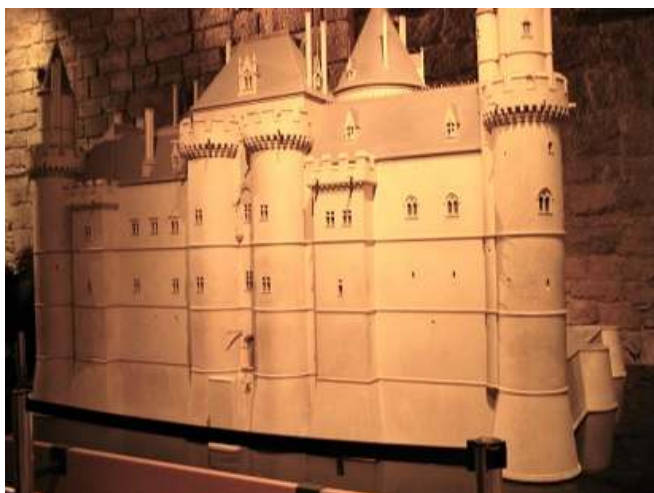


図 14 フィリップ・オーギュストの市壁

- ④ 図 14 は、十字軍に参加する前に建設を指示した市壁と、帰国後に整備した部分を含んでいる。パリを王国の首都に選んだ理由は、経済と防衛の両面にある。紀元前 1 世紀からローマ軍が作ってきた軍用の「**ローマの道 Roman Road**」の主要部分がパリを通過しており、ガロ・ローマ時代以降も経済活動で重要になっている事、また**セーヌ川**も経済と軍事で重要になっており、市壁が川の両岸に亘っているのは、当時はイングランド軍の川からの侵攻が想定されていた。
- ⑤ 以前は、首都・王宮の概念はうすく、王が移動するときは貴重品も同時に持って移動していたが、パレスチナのキリスト教の聖地で戦かう十字軍となれば、遠征中の管理の仕組みを改革する必要があった。十字軍後の 1194 年のイングランドとの戦いで財宝・公文書を戦場に放棄した経験から財産、公文書を管理するために王宮の一つの塔を文書庫にあてた。
- ⑥ 右岸の市壁外には巨大な**ルーブル要塞**を建設した。これも、セーヌ川から侵攻してくるイングランド軍を想定している。ミッテラン大統領時代に大改修されたルーブル美術館の地下から、天守の一部が発見されて現在公開されている

## 7. フィリップ・オーギュストの市壁の周辺を訪ねた

- ① ルーブル美術館地下のルーブル要塞の模型と本物の天守の基礎部 第 6 項⑥参照 2007 年 10 月 筆者撮影



- ② 図 14 の Hotel St Paul 周辺を歩く → Village ST-Paul は、**パリっ子にとってトレンドイ**な高級住宅地  
地下鉄 St-Paul 駅のまえに St-Paul 教会がある。その裏側に**ヴィラージュ・サンポール** があり、そこを囲む南北の通り Rue des Jardins St Paul は、フィリップ 2 世・オーギュストの城壁の外側にあった通りで、サンポール教会との間にあるグラウンドに沿って城壁の一部が残っている。城壁の外にはシャルル 5 世がシテ島の王宮から移ってきた **Hotel St-Paul** があったが、ヴィラージュ・サンポールはその跡地。百年戦争の時に王太子だったシャルル 5 世がイギリス軍に王宮を追われて住んだ所。。



- ヴィラージュ・サンポールのグラウンドと城壁 表示プレートには、Reste de L'Enceinte Philippe Auguste XII Siecle、と書かれたいて、「**12 世紀のフィリップ・オーギュストの城壁の残骸**」といういみです。写真出典：30 回 西内一 氏より提供

## 8. フィリップ二世オーギュストの**（尊厳王）の事**、どなたか、ご存じでしたらご教示頂きたくおねがいします。

- ① フィリップ・オーギュストは正式名で正しいが、日本語の資料には**尊厳王**が併記されている。  
ウキペディアにも「フィリップ二世は偉大な功績を残したので、**尊厳王（オーギュスト、Auguste）**と呼ばれた」とあるし、他の日本語のサイトにもほとんど同様の併記がある。多分誰かが併記を始めて、他の人もコピー＆ペーストで広がったと思う。しかし、英語版とフランス語版のウキペディアや、山川出版のような権威ある歴史書にはそのような記載はない。
- ② ローマ史の権威者である**本村凌二**氏の「**はじめて読む人のローマ史 1200年**（禅伝社）」には、ローマ帝国初代皇帝アウグストゥスに関しては、「紀元前63～14年。前名はガイウス・ユリウス・カエサル・オクタウィヌス。紀元前27年、元老院より**アウグストゥス（尊厳ある者）**の尊称を贈られ、**インペラトル・カエサル・アウグストゥス**となり、ここに初代皇帝が誕生した。」と記載されている。したがって、ラテン語のアウグストゥス Augustus が尊厳ある者である事は正しいと思う。  
余談だが、ローマ皇帝にはありがたい名前をいくつも繋げた例があり、**落語のジューグム**みたである。
- ③ パリのシテ島の**王宮コンシエルジュリー**のガイドブックには、「**8月に生まれた事からラテン語で Augustus**（つづりは正しいかな？）とあだ名されたが、フランス語読みすると**オーギュスト**となる」と書かれている。
- ④ 確かと思われるのは：2000年以上前の Augustus が尊厳ある者。約800年前のカトリック国の王は教会からラテン語で命名されていたので、8月生まれの子にフィリップ二世のあだ名がラテン語で8月を意味する Augustus にされた。
- ⑤ 疑問？：生まれたばかりで、何の実績もない子供に「尊厳王」の尊称を付けるのかな～？疑問は残ったまま。

## 9. 雑談

- ① カペー家の**フィリップ**（英 Philip Phillip、仏 Philippe）は、名前としては家族の名前**カペー**を使うのは、洗礼とか王位に就くときだけなのか、歴史書にも出てこない。一般には、Philippe・Auguste のように、（名前）・（あだ名 Pet Name, Nick name）を使うようだ。
- ② 欧米のキリスト教徒は、生まれたときに教会から名前を頂き、クリスチャン・ネームとした。（日本では死んでから、お寺で戒名を買う）それは、聖人やありがたい人々の名前が多くて、赤ちゃんの時には呼びにくい名前だったので、あだ名で呼ぶようになった。アメリカの元大統領ビル **William**・クリントン Clinton は、大統領就任式では、**William** Jefferson Clinton と宣誓していた。William は赤ちゃんの頃は Billy その次は Bill になる。  
イギリスの元首相のトニー・ブレア Tony Blair も 正式には、Anthony Blair であり、Tony は Anthony の Pet name なんだ。
- ③ 今のアメリカ大統領は **Joe Biden**、大統領就任式では **Joseph Robinette Biden Jr.**と言っていた。  
名前が Joe と言えば Joseph ギリシア語でヨセフ、即ち、イエスの母の夫（イエスの父ではない）ヨセフの事でアメリカ人は誰でも知っていて、我々が勝手に付けるニックネームとはちがう。正式名は父親と同性同名だから父には Sr.シニア、自分は Jr.ジュニアを付ける。
- ④ 私は、イギリス時代は美人秘書の妹が Spuddy スパディーと付けてくれて、彼女たちからは今でもそう呼ばれている。  
母音だらけの日本人の名前の発音は難しいからだと思う。Spud はジャガイモの事で、Spuddy はジャガイモちゃんかな？  
**芋男**かな～？

以上